

国の悪政持込み・開発偏重やめさせ 住民の声に応える区政に



- いさ 哲郎**

 - 子ども文教委員会
 - 区内駅周辺等まちづくり調査特別委員会
- 広川 まさのり**

 - 子ども文教委員会(副委員長)
 - 少子高齢化対策調査特別委員会
- 長沢 和彦**

 - 党区議団幹事長
 - 総務委員会
 - 区内駅周辺等まちづくり調査特別委員会
- 浦野 さとみ**

 - 党区議団副幹事長
 - 厚生委員会(委員長)
 - 区役所及び体育館整備調査特別委員会
- 来住 和行**

 - 党区議団団長
 - 建設委員会(副委員長)
 - 少子高齢化対策調査特別委員会
- 小杉 一男**

 - 厚生委員会
 - 区役所及び体育館整備調査特別委員会
- 羽鳥 だいすけ**

 - 区民委員会
 - 区内駅周辺等まちづくり調査特別委員会(副委員長)

国政では安倍政権の暴走が続いています。中野区では、介護給付の削減や「詰め込み保育」の実施など「規制緩和」による施策水準切り下げの一方で、区民の税金を注ぎ込む中野駅周辺の大型開発が計画されています。党区議団は悪政を許さず、福祉・くらし優先の区政にするため力を尽くします。

憲法と平和を守る12.8中野集会▼

暴走政治ストップ! 「命・くらし守れ」と市民との共同を推進

県民と野党の共闘で、新潟では原発再稼働に待ったをかける新知事が誕生。東京でも、都民や共産党が批判してきた汚染地豊洲への市場移転や巨額のオリンピック経費について、再検討・見直しが進んでいます。

中野区では、戦争法(安保法制)の廃止、貧困と格差の是正などをめざす、市民のみなさんと共産党の共同が進んでいます。憲法を生かした「いのち・くらしを守る中野区」へ、幅広い運動をさらに発展させます。



街の声・区民の運動と結んで前進 認可保育園・特養老人ホームの増設をはじめ

「認可保育園に入れたい」など切実な区民の声を拾い上げ、区の責任による認可保育園の増設をくり返し求めてきました。また都議団とも連携し、都有地の活用を提案するなど、特養ホームの増設を前進させてきました。



- 小中学校の耐震化・冷房化・洋式トイレ化
- 福祉タクシー券制度の充実
- 政務活動費すべての領収書提出の義務化

豊洲移転問題 当初から告発した共産党——区議会各党は？

もともと「築地市場の再整備は現在地で行う」ことが都の方針でした。ところが石原元知事が、土壌汚染が深刻な豊洲移転方針を決定。自民党・公明党などが後押しをしてきました。

共産党は、「食の安全まもれ」と豊洲移転を当初から批判。党区議団も、豊洲移転中止を都知事に求める意見書を区議会に提案。これに自・公・などが反対、いま各党の立場が問われています。

🔍 日本共産党中野区議団

メールはホームページから

くらしと区政への相談は、お気軽に下記まで

日本共産党中野区議団ニュース

2017年新春特別号

日本共産党区議団/中野区中野4-8-1 TEL3228-8873 FAX 3389-8657

中野区

区民負担ふやし 基金ためこみ

629億円



国の消費税増税に加えて、国保・介護料の連続値上げや就学援助費を削減するなど、区民負担を増やし切実な要求を抑え込んできた中野区。

2015年度には区政史上最高の174億円を基金に積み増して、総額は629億円にも積み上がっています。

あいつぐ施策削減

- 就学援助金の削減
- 社会科見学・遠足代補助の削減
- 障害者福祉手当の削減

ふくれあがる開発費

くらし・福祉に関わる費用は、わずかなものまで削りながら、開発やハコモノなどの事業には大盤振る舞いで。当初の見積もりはふくれあがるばかりです。

- 中野駅西側南北通路・橋上駅舎
(線路をまたぐコンコースなど)

71億円→119億円

- 平和の森公園再整備

55億円→108億円

基金3%の活用だけでも

—— 例えば これだけのことが実現

- 国保料・介護保険料の引き下げ 15億円
(両保険料を各々年額1万円引き下げた場合)
- 商店・住宅リフォーム助成制度の実施 3億円
- 給付型奨学金の創設 3500万円
- がん検診無料化 1億円
- 家族・青年層への家賃助成制度 3100万円
- 障害者福祉手当支給の拡充 1400万円

区役所・サンプラザ、学校跡地など 区民財産を売却

区役所・サンプラザの解体・再開発が準備されています。区民財産を開発業者などに売り渡す計画です。高さ約200mのビルと1万人規模のアリーナ施設が構想されていますが、区民には必要ありません。区は住民との約束をホゴにして旧東中野小跡地の大半を売却したのに続き、温暖化対策推進オフィス(旧環境リサイクルプラザ)や商工会館等の売却まで予定しています。区民財産の切り売りは許せません。

切実な願い実現へ全力 日本共産党

区民の声にあたたかい 「自治と参加の区政を」

都合の悪い情報提供は行わない、意見交換会もパブリックコメントも形だけで「聞き置く」だけ——自治基本条例を歪める中野区。

「平和の森公園の緑と広場を守って」「児童館・U18プラザをつぶすな」「区立幼稚園・保育園を存続して」「地域図書館をなくさないで」——乱暴・性急な区の進め方に批判が高まっています。

共産党は区民との連携・共同をさらに強め、自治と参加の区政をめざします。



住民参加で作った平和の森公園に「緑を削らないで」と集まった人たち

「認可保育園をもっと」 「特養ホーム増設急いで」

中野区は、「保育園が見つからず育休を延長した」場合などは待機児童に数えません。党区議団は、この「隠れ待機児童」問題を取りあげ、待機児童数が区の公式発表の2.5倍=644人になると追及してきました。

特養ホームの待機者も948人(要介護1以上)と深刻です。中野区は事業者参入を待つという消極的な姿勢です。両施設の増設をさらに強く求めています。



「安心な介護・医療制度を」

国民健康保険料は14年連続で値上げされ、この間に、保険料は1.5倍、滞納世帯も加入者の3分の1に増大。保険料負担はもう限界です。介護では保険料値上げとともに、「軽度」と判定された人は保険給付が受けられなくなる恐れがあります。

高すぎる保険料の引き下げや、必要な介護を受けられるよう人員や設備の拡充を急がせます。



23区で中野だけが未実施

防災 住宅の耐震化助成の実施

学校 統廃合でなく少人数学級の推進を

仕事 就労相談窓口の設置・ブラック企業等対策